

## 1、全日本リコーダー・コンテスト 3/27



沖縄・ツガ山小学校の皆さん

久しぶりに『全日本リコーダーコンテスト』へ行ってきた。震災で一回流れ、私の転居問題で一回欠席したので三年振りである。

リコーダーは単純構造の楽器だから、奏者には演奏工夫が可能で楽しいものだが、鑑賞者にその苦労は伝わりにくく、数曲・十数分も聞けば「もう結構」と言いたくなるもの。だが全日本は好演続出で楽しい。今年も7時間、109チームが演奏発表した。

その一つ、沖縄南風原・ツカザン小学校の演奏曲は『廣瀬量平作曲 ブルートレイン』（小波津繁雄編曲）まずは舞台一杯の52人の子供たちにびっくりだが、Ksn Sn S A T B

GB CBの8種類のリコーダーが効果的に用いられていることにも驚く。CBは@70~80万円以上もするので、4本も用いて演奏されるのは信じられない光景である。

編曲の小波津先生には数年前にお会いしたが、沖縄からペルーへ移住した日本人の子供のために数年も現地教育で苦労したとのこと。そんな多忙の中で生まれた作品であろう。

一方、沖縄に鉄道はないから、ブルートレインなどは知らない子供たちには、未経験の世界の音楽表現だったことであろう。

更に信じられないのは「子供たちをどのように東京へ連れて来たか？」という問題で、先立つ物・家庭の協力・様々の交渉事・安全への配慮・引率のこと等々、とても一人や二人の先生では出来ない仕事である。努力の皆さんに『ゴールド・金賞・花村賞』が与えられた。

初回コンテストから34回の今回まで、休まずに役も演奏も頑張っているのは武藤先生。いつも下支えの「人口主任」をしてくれているのは桜井さん。この二人は表彰に値する。

あとはみんな変わってしまった。花村賞の花村大初代会長。二代目で徳山賞の徳山博良会長。みんな鬼籍の人。元気な顔を見せていた諸岡・中島・砂川・小原・三木・原田・橋本・仲本などの諸氏の姿が見えず、上杉紅童・遠藤一巳先生も居られず寂しい思い。そんな中で大竹尚之さんがわざわざ私に声を掛けて下さったのは嬉しいことだった。

新幹線で面白かったのは『桜前線』で、奈良・京都では1~2分咲きと言われていたが、名古屋を過ぎるとピンクの固まり、浜名湖辺では桜並木、東京では満開だった。人の話では「先週の日曜が良かった」とのことだったが、28日朝、亀戸のホテルを出て、上野の寛永寺から動物園・不忍池方面まで歩き、大いに桜と人出を堪能した。

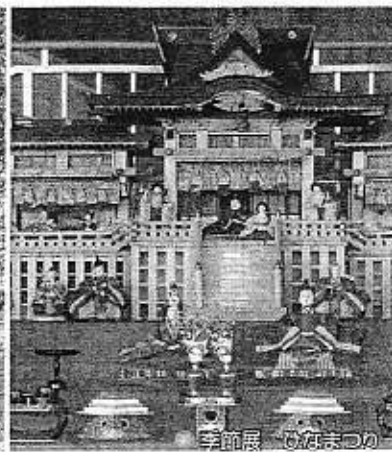
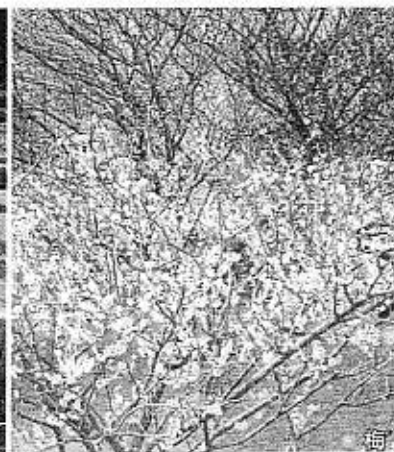


「和歌山の桜は今日が盛り、明日は雨」とTV。「それならば」と未経験のJR和歌山線に乗る。王寺から大和高田までは快速だが、その後は単線の鈍行で、2時間半ほどもかかって紀三井寺に到着。一駅ごとに異なる桜を見ることができた。紀ノ川近くは川岸から高野山方面までさまざまに咲き乱れ、線路沿いには桜トンネルもあった。

紀三井寺門前で名物の『桜鯛』を頂く。女将に「桜が満開なのに人出が少ないね」と聞くと、「今年はサッパリですワ。南海トラフで津波の怖さを宣伝するからヤ。ここは海拔3,5m、逃げるとなればお寺しかアラヘン。家を流されたらドナイします？ 東北のニュースを見てるサカイ誰もが真剣なんですワ」との話。

静岡では東海地震。こちらは南海トラフ。水没日本。（この後淡路地震：M5強あり）

土産物屋も暇らしく、店番の小母ちゃんも手持ち無沙汰で「桜餅」を差し出しながら元気がない。「那智黒の碁石は売らんの？」と聞くと「昔は那智黒の碁石をよう買わりましたけど、今はそんな人は居りません。プラスチックで済みますもん」という。「そうか。那智黒の碁石といえば小さいながらどっしりして、盤に置くとピシリといい音がして、置いた黒石がしばらく揺れて白側からも良く見えたと言いますけどなあ」と受け売りの話をすると「そやそや、家の宝にする言うて買うていかはったもんや、セヤケド 今は那智黒の灰皿もアカン、せいぜいフクロウの置物や・・・」



### 3、目玉の松ちゃん眼の体操

先々月、花粉症を疑い眼科医へ飛び込んだが、呆れたのは自分の眼の動きの鈍いこと。「頭を動かさずに左右を見て」と言われても眼球が動かない。以後、自己流に眼の体操をすることにした。

《朝》 寝たまま頭を動かさずに左右を見て上下を見て、目薬1～2滴。眼球指圧。

《昼》 外へ出て遠景・近景を交互に見る。運転中は安全第一だが、左右の景色・看板・人・対向車を見る。特に動く物。前を行く車のナンバーで車間距離を考えて焦点移動。交差点で長く停まればナンバー利用の加減乗除で頭の体操。

《夜》 朝同様。寝たまま左右と上下を見て、グルグル回し、目薬したら眼球指圧。細字には**天眼**。読書後には**点眼**。美人を見た後には**洗眼**。

### 4、橘街道の植樹

4/3 橘街道の橘植樹祭と言うので、探して「大和郡山・石川」へ行ってみた。

ここはその昔、平城京と大和南部を繋ぐ三本の大道の一つで「中ツ道」と言われた所。全長35kmほどの古道沿いに田道間守の故事から橘を植え、和菓子店とコラボでジャムやジュースのスイーツを作り、文化勲章の橘も宣伝したいとの壮大な計画である。

しかし、事は簡単でないらしい。「中ツ道」の名は有名でも、実際には途中で消えたり、民家が軒を連ねて塞いでいたりするし、住民の協力が欠かせられない筈だが、ここは僅か数十mの直線道路を開設するのに60年もかかったという難しい土地柄である。

だが、悲観論は並べず、観光客にも呼びかけボランティア奉仕も募って運動を高めたいという。みんなの話題になって効果を挙げれば、成功の道が開けていくであろう。

郡山城門前の老舗『菊屋』では橘を用いた和菓子の試作が始まったという。





**奈良の俳句と川柳**

三山を少し浮かせて遠霞  
 飛鳥野に春を撒くよにバスが来る  
 墨の香や 春の便りを友に書く  
 揚げ雲雀 天の高さよ大ききよ  
 三室山 桜は宅地に囲まれて  
 群れ遊ぶイカルにラブラブあるらしく  
 宝輪の淡く浮かびて 月朧  
 若葉萌え 馬頭観音 背が伸びる  
 初ツバメ 宮址に仲間十羽ほど  
 奈良町の千本格子 燕来る  
 水温み 太閤池にメダカ見ゆ  
 孕み鹿 ホルンを聞いてやおら起つ  
 旨酒や 大和の春の飲み比べ  
 五月風 押されて登る葛城山  
 撫子と呼ばれて態度でかくなり  
 姫ハンドル譲らん止まらん謝らん  
 我がリュック 圧力釜と疑われ  
 事実一つ 解釈多様 歴史観

**四月 銭湯会話**

脱衣場で隣へ来て服を脱ぎ始めたのが女性。  
 「エッ！俺も毫碌して女湯へ来たか??？」  
 だが、周囲は皆男性。ブラブラさせてる奴も  
 秤に乗って「狂っとる」と騒ぐご常連もいる。  
 くだんの女性、胸も前も隠さず「温泉ヤノニ  
 混浴チャウノ？アテはドッチャでもエエけど」  
 悠々と一人でご入浴。男共はチン黙。

